

川上典李子さん、岸朝子さん、
 関美香さん、千田堅吉さん、
 中村晴子さん、山田節子さん・選

面白いことに、私たちは「むきだし」で
 ものを持つことを嫌います。ましてや人に
 ものを渡す場合、たとえ目の前でそれがあ
 らわになることがわかっていても、「見え
 ない形にして相手に渡したい」とあれこれ
 工夫を凝らしてしまうのが日本人というも
 の。また、掛け紙が多ければ多いほど大切
 なものである、と考えるのも日本人ならで
 はの感覚ではないでしょうか。「包む」行
 為は相手を尊重する気持ちの表れ。かつて
 の日本人は懐紙や風呂敷を常に携帯してい
 たものですが、この習慣が薄れているのは
 とても残念なことです。

明治時代から戦前まで、教科書には「折
 形」という礼法が載っていたとか。折形とは
 上級武家の間で秘伝として使用された包み
 の手法です。扇、筆、新茶、お金など対象物
 の形に合わせて包んで折る。手間がかかり
 ますが、「紙を折る行為にかけた時間こそ
 が相手への最大の贈り物」と考えれば、あた
 りまえのことなのです。あらためて、包む
 行為に託した先人の心を取り戻したいもの
 です。「人と人の間で一枚の紙が美と清ら
 かな心を生む、という意味をもっと知ってほ
 しい」(古美術 祥雲オーナー・関美香さん)

風呂敷より時計回りに／写真は「お使い包み」で、最も
 格の高い包み方に「平包み」がある。うすらちりめん地
 の風呂敷 藤色・正絹二尺巾15、750円(むす美 0
 3・5414・5678)。山根折形礼法教室(03・3
 371・1123)を主宰する山根一城さんによる古典
 的な折形の一例。「筆包み」は筆先の姿がそのまま鑑賞
 できる包み方で、書が好きな方へ。香辛料や薬を包む
 粉包みの折形から「胡椒包み」と「萬粉包み」。寿の文字
 が躍る金封は芸事に携わる人への楽屋見舞いなどに人
 気。「寿たとう」5枚入り1、155円・そつと手渡す習
 慣が生んだ女性の手のひらに収まるサイズ「長半円紅
 帯のし」5枚入り550円(榛原 03・3264・3741)。
 ※折形に包んだ筆(玉川堂 03・3264・3741)

包む

「伝統的な包みの文化には
 控えめな美学がある」 山田節子さん

風呂敷

折形

折形

懐紙

金封

